

平成31年度 ふれ愛の館しおん高齢事業 事業計画

1. 事業計画の概要

前年度は不採算事業の整理、特別養護老人ホームによるシナジー効果を狙い、収支の改善を図るが、特に通所介護稼働率の低下が大きく収支の改善がみられなかった。前年度比では改善がみられるも、人件費は高い推移であり、特別養護老人ホームの効果がみられていない。今年度は組織体制の見直しはかり、人材効率的な活用と在宅から施設の一貫した運営体制を取り、収支の改善を図る。

2. 顧客・利用者の視点『サービスの質の向上へ』

(1) サービスの質の向上

- ・第3者評価の導入
- ・顧客満足度調査（年2回）に向けたプロジェクトの立ち上げ
- ・高齢事業の広報誌の発行（年4回）

(2) 新規サービスの実施

- ・「食」文化の充実のため、全国の施設間防災ネットワークからの地産品購入やみぞ、米作りなどに参加
- ・家族会の語りの「場」づくり 家族会記念誌の発行
- ・認知症の方と家族の「歩こう会」と認知症カフェの実施

3. 地域への貢献『地域の福祉課題への取り組み・コミュニティ形成』

(1) 包括的な相談支援体制の構築

- ・民生委員との茶話会、市営住宅との井戸端会議の定例開催（1回/月）および課題抽出型地域ケア会議の開催（2回/年）で、地域の福祉課題について協議する場を設ける。
- ・地域のニーズ把握および社会資源の創出、社会福祉法人としての公益的な取組に際して、ミックスモダン焼きの会主催による「小地域座談会（仮）」に参画する。

(2) 地域との協働

- ・地域の拠点としての、住民向け学習会、専門職の各種学習会など各種機関ののりしろとして、あびんCoハウスや3号館食堂を活用した「つながりLabo」の開催
- ・こども食堂の実施
- ・苜田および苜田北地域活動協議会（毎月）、苜田地域民生委員協議会（2回/年）への参加、各地域での盆踊り（1回/年、3か所）、敬老大会（1回/年、2か所）他、各種行事への参画

4. 組織プロセス（実施体制）の再構築

- ・高齢事業全体での情報共有の場づくり JOBマジックの活用と部門会議等の開催
- ・働きやすい環境整備 人事評価制度に対する適正な評価
- ・評価者目標面談のスキル向上
- ・有給休暇の取得推進
- ・3号館の就労環境の見直し
- ・職員満足調査の実施（年1回）
- ・ICTの導入による業務の効率（在宅部門）

5. 人材育成・定着・確保

- ・外部ネットワークなど、職員が他機関との繋がりや学習の場への定期的参加
- ・接遇トレーナー・おむつマイスター研修など介護職のキャリアパス研修体系の構築
- ・中堅（ユニットリーダー、サービスリーダー、副主任）学習の場づくり
- ・個人の実践コミュニティの拡大 個々の持ち味に戦略を立てる
- ・管理職・リーダー職の接遇研修への参加（利用者や働く様々な人の安心と信頼を得る技法の習得）

6. 財政基盤の安定

- ・徹底した稼働率管理（特養 96%、ケアプラン 30 名、デイサービス 20 名、第 2 デイ 11 名、訪問介護請求数 150 名）
- ・デイサービス事業を地域密着型への移行により、収支率の改善を図る
- ・加算取得に向けて体制整備（特養・・・口腔、栄養加算）
- ・3 号館浴室改修及び水漏れ工事（助成金の活用） 20,000,000 円
- ・処遇改善費の支給方法の見直し